

スダレダイ科ユウダチスダレダイ *Drepane punctata* の日本からの確かな記録

上城拓也¹・伊東正英²・本村浩之¹

¹ 〒 890-0065 鹿児島県鹿児島市郡元 1-21-30 鹿児島大学総合研究博物館

² 〒 897-1301 鹿児島県南さつま市笠沙町片浦 718

はじめに

スダレダイ科スダレダイ属魚類は、スダレダイ *Drepane longimana* (Bloch and Schneider, 1801) とユウダチスダレダイ *D. punctata* (Linnaeus, 1758) の2種から構成されている (Heemstra, 2001)。ユウダチスダレダイは東インド洋と西太平洋の熱帯から亜熱帯域にかけて広く分布する (Heemstra, 2001; 林, 2013)。国内では沖縄島以南の琉球列島に分布するとされている (林, 1984, 1993)。しかし、ユウダチスダレダイが日本に生息するという根拠となる情報や標本はなかった。

2011年11月18日と25日に鹿児島県南さつま市笠沙町からユウダチスダレダイと同定される2個体が採集された。これらの2標本は、ユウダチスダレダイ標本に基づく日本からの確かな初記録であると同時に本種の北限記録となるため、ここに報告する。

材料と方法

計数・計測は体高を除き Hubbs and Lagler (1947) に従った。体高は背鰭第2棘基底から臀鰭第2棘基底までの距離を測定した。計測はデジタルノギスを用いて0.1 mm単位まで行い計測値は体長に対する百分率で示した。標準体長は体長またはSLと表記した。生鮮時の体色の記載は、鹿児島

県産の2標本 (KAUM-I. 43841, 52165) のカラー写真に基づく。標本の作製, 登録, 撮影, 固定方法は本村 (2009) に準拠した。本報告に用いた標本は、鹿児島大学総合研究博物館 (KAUM) に保管されており, 上記の生鮮時の写真は同館のデータベースに登録されている。

結果と考察

Drepane punctata (Linnaeus, 1758)

ユウダチスダレダイ (Fig. 1A-B; Table 1)

標本 2個体 (体長236.1–249.5 mm) : KAUM-I. 43841, 体長236.1 mm, 鹿児島県南さつま市笠沙町松島沖北東部 (31°25'06"N, 130°12'32"E), 水深20 m, 定置網, 2011年11月25日, 伊東正英; KAUM-I. 52165, 体長249.5 mm, 鹿児島県南さつま市笠沙町片浦貝浜沖 (31°25'58"N, 130°12'00"E), 水深20 m, つぼ網, 2011年11月18日, 坂元治二 (かごしま水族館にて2012年8月24日まで飼育)。

記載 計数形質と各部位の体長に対する百分率を Table 1 に示した。体は強く側偏し, 菱形を呈する。体高は著しく高く, 体長とほぼ等しい。頭高は著しく高く, 口は小さい。主上顎骨後端は眼の前縁下を越える。眼窩上部は隆起する。吻端から眼窩下にかけて, および鰓蓋骨上は無鱗。眼窩幅は広い。背鰭と臀鰭はそれぞれ1基で, 基底が長く, 広く被鱗する。背鰭第1棘は皮下に深く埋没する。背鰭棘条部と軟条部の間は欠刻がない。胸鰭は鎌状で, その後端は背鰭軟条部基底中央下を遙かに越える。胸鰭最上軟条から第6軟条は不

Uejo, T., M. Itou and H. Motomura. 2015. First reliable records of *Drepane punctata* (Perciformes: Drepaneidae) from Japan. *Nature of Kagoshima* 41: 145–147.

✉ HM: the Kagoshima University Museum, 1-21-30 Korimoto, Kagoshima 890-0065, Japan (e-mail: motomura@kaum.kagoshima-u.ac.jp).

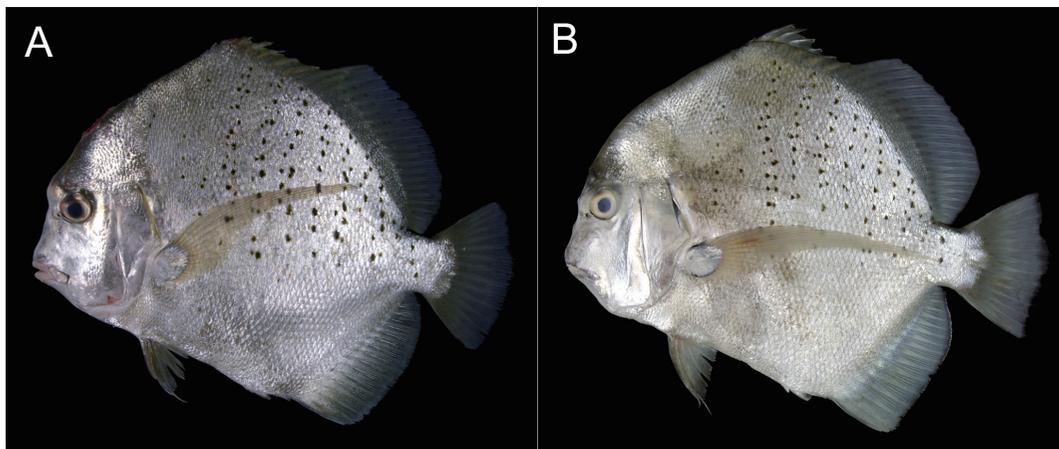


Fig. 1. Fresh specimens of *Drepane punctata* from Kasasa, Kagoshima Prefecture, Japan. A, KAUM-I. 43841, 236.1 mm standard length (SL); B, KAUM-I. 52165, 249.5 mm SL.

分枝，第7軟条から分枝軟条となり最下軟条にかけ短くなる。腹鰭軟条はすべて分枝し，第2分枝軟条の第2枝は伸長する。尾鰭は二重截形。体側の鱗は円形で，付属小鱗が多く，側線前部の有孔鱗は付属小鱗の下に深く埋没する。側線は鰓蓋骨上部後端から背鰭第2棘基底部にかけて緩やかに上昇する。

色彩 体色は光沢のある銀色。吻端から眼窩下にかけてと，鰓蓋一帯は銀白色。胸鰭基部は銀

色で，腋部は黒い。体側には鱗と同大の黒色点が多数あり，11本の不規則な横破線を形成する。黒色点の一部は2-3コが繋がり，比較的大きい黒斑にみえる。各鰭は半透明で基部が黄緑色を帯びる。背鰭軟条部の鰭膜には2-3本の不明瞭な黒色点列がある。

分布 インド以東のインド洋と西太平洋広域に分布する (Heemstra, 2001)。国内では鹿児島県薩摩半島西岸からのみ記録された (本研究)。

Table 1. Counts and measurements, expressed as percentages of standard length, of *Drepane punctata*. Modes and means in parentheses.

	Kagoshima, Japan	Thailand and Malaysia
	<i>n</i> = 2	<i>n</i> = 7
Standard length (SL; mm)	236.1–249.5	82.9–173.3
Counts		
Dorsal-fin rays	VIII, 21	VIII–IX, 20–21
Anal-fin rays	III, 18	III, 17–18 (18)
Pectoral-fin rays	17	16–17 (16)
Pelvic-fin rays	I, 5	I, 5
Pored lateral-line scales	47–50	45–46 (46)
Gill rakers (upper + lower)	6 + 10 = 16	2–5 (5) + 9–11 (10) = 12–16 (15)
Measurements (% of SL)		
Body depth	85.7–89.8	88.9–99.0 (94.8)
Body width	10.7–11.0	10.6–11.4 (11.0)
Head length	33.4–34.7	34.1–38.0 (36.4)
Snout length	15.1–15.4	14.4–17.7 (15.7)
Orbit diameter	7.6–7.9	8.4–11.6 (10.2)
Interorbital width	11.9–12.3	10.5–12.8 (11.8)
Upper-jaw length	11.1–11.2	11.5–13.1 (12.1)
Caudal-peduncle depth	14.4–15.4	14.2–15.5 (14.9)
Pre-dorsal-fin length	68.1–72.4	69.8–77.6 (72.5)
Pre-anal-fin length	59.0–61.1	60.3–64.3 (64.1)
Pre-pelvic-fin length	31.9–33.4	34.6–39.3 (36.4)
Caudal-fin length	20.5–21.1	24.5–28.8 (26.2)
Pectoral-fin length	51.0–61.2	56.8–64.9 (54.8)
Pelvic-fin spine length	12.2–14.0	12.8–19.7 (16.6)
Pelvic-fin length	19.0–20.5	22.0–31.7 (26.8)

備考 鹿児島県産の2標本は、体側に複数の黒色点横列があることから *Drepane punctata* と同定された。唯一の同属他種であるスダレダイは体側に黒色点がなく、黒色横帯を有することから容易に識別される (Heemstra, 2001; 林, 2013)。

松原 (1955) は本種の和名を“ユウダチスダレ (タマスダレ)”とし、台湾以南に分布するとした。その後、林 (1984, 1993, 2013) は本種が日本に分布すると初めて言及し、国内での分布域を沖縄島以南の琉球列島とするとともに和名をユウダチスダレダイとした。林 (1984) のユウダチスダレダイの国内における分布記述は、琉球大学理学部 (URM) に保管されていた標本が根拠であり (林 公義氏, 私信), その後の報告 (例えば, 林, 1993, 2013) は林 (1984) を踏襲したに過ぎない。しかし、同大学の魚類コレクションの中に国内産のユウダチスダレダイの標本がないこと、本種は大陸棚上に生息する魚で、過去琉球列島には出現した記録がないこと (吉野哲夫氏, 私信), および同コレクションには東南アジア産のユウダチスダレダイ標本が複数登録されていることから、東南アジア産の標本を日本産と誤認した可能性が高い。したがって、本報告は産地が明らかな標本に基づくユウダチスダレダイの日本からの初めての確かな記録となる。

なお、鹿児島産の1標本 (KAUM-I. 52165, 体長 249.5 mm) は、採集後ただちにかごしま水族館に搬入され、165日間飼育展示された。展示期間中の79日間は摂餌せず、その後2012年2月5日に摂餌が開始されたが、同年8月24日に死亡した (山田守彦氏, 私信)。

比較標本 ユウダチスダレダイ — 7個体 (体長 82.9–173.3 mm) : KAUM-I. 12050, 体長 125.2 mm, KAUM-I. 49164, 体長 111.9 mm, マレーシア・サバ州・コタキナバル沖 (06°00'N, 116°07'E); KAUM-I. 22870, 体長 135.1 mm, KAUM-I. 32897, 体長 128.3 mm, KAUM-I. 47381, 体長 82.8 mm, タイ湾; KAUM-I. 44881, 体長 137.6 mm, タイ・プーケット沖; KAUM-I. 67524, 体長 173.2 mm, ベトナム・バンドン・ハロン湾 (21°05'N, 107°25'E), 水深 20 m。

■ 謝辞

本報告を取りまとめるにあたり、ユウダチスダレダイの情報を下さった元琉球大学の吉野哲夫氏、元横須賀市自然・人文博物館の林 公義氏、かごしま水族館の山田守彦氏、多くの助言とご協力をくださった鹿児島大学総合研究博物館魚類分類学研究室の研究者、学生、およびボランティアのみなさまと長崎西区研究所の松沼瑞樹氏、および標本を採集して下さった坂元治二氏に深く感謝する。本研究は、鹿児島大学総合研究博物館の「鹿児島県産魚類の多様性調査プロジェクト」の一環として行われた。本研究の一部はJSPS科研費 (19770067, 23580259, 24370041, 26241027, 26450265), JSPS アジア研究教育拠点事業「東南アジアにおける沿岸海洋学の研究教育ネットワーク構築」、総合地球環境学研究所「東南アジア沿岸域におけるエリアケイパビリティーの向上プロジェクト」、国立科学博物館「日本の生物多様性ホットスポットの構造に関する研究プロジェクト」、文部科学省特別経費—地域貢献機能の充実—「薩南諸島の生物多様性とその保全に関する教育研究拠点形成」、および鹿児島大学重点領域研究環境 (生物多様性プロジェクト) 学長裁量経費「奄美群島における生態系保全研究の推進」の援助を受けた。

■ 引用文献

- 林 公義. 1984. ユウダチスダレダイ. P. 175, pl. 171. 益田一・尼岡邦夫・荒賀忠一・上野輝輔・吉野哲夫 (編), 日本産魚類大図鑑. 東海大学出版会, 東京.
- 林 公義. 1993. スダレダイ科. Pp. 774, 1330. 中坊徹次 (編), 日本産魚類検索 全種の同定. 初版. 東海大学出版会, 東京.
- 林 公義. 2013. スダレダイ科. Pp. 989, 2022. 中坊徹次 (編), 日本産魚類検索 全種の同定. 第三版. 東海大学出版会, 秦野.
- Heemstra, P. C. 2001. Drepanidae. Pp. 3221–3223 in Carpenter, K. E. and Niem, V. H., eds. FAO species identification guide for fishery purposes. The living marine resources of the western central Pacific, volume 5. Bony fishes part 3 (Menidae to Pomacentridae). FAO, Rome.
- 松原喜代松. 1955. 魚類の形態と検索. II. 初版. 石崎書店, 東京. v + 791–1605 pp.
- 本村浩之. 2009. 魚類標本の作製と管理マニュアル. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島. 70 pp (<http://www.museum.kagoshima-u.ac.jp/staff/motomura/dl.html>)